

研究・調査報告書

報告書番号	担当
376	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Random-effects meta-regression models for studying nonlinear dose-response relationship, with an application to alcohol and esophageal squamous cell carcinoma. 食道がんに及ぼす飲酒の影響について 量反応関係についての検討	
執筆者	
Rota M, Bellocco R, Scotti L, Tramacere I, Jenab M, Corrao G, La Vecchia C, Boffetta P, Bagnardi V.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stat Med. 2010 Nov 20;29(26):2679-87.	
キーワード	
飲酒、食道がん、量反応関係、メタアナリシス	
要 旨	
目的： 既存文献を対象としたメタアナリシスを行い、食道がんに対する飲酒の量反応関係について明らかにする。	
方法： 2008年までに報告された既存文献より、次の3条件 (1) 症例・対照研究またはコホート研究 (2) 飲酒量を少なくとも3群に分類している (3) それぞれの飲酒量について喫煙を調整した相対リスク(RR)またはオッズ比(OR)と95%信頼区間(95%CI)が算出されている、を満たすものを選出した。結果、症例・対照研究14、コホート研究1をメタアナリシスに用いた。合計3,000例の食道がん症例がメタアナリシスに含まれた。	
結果： 非飲酒者を対照とすると、飲酒者の食道がんのRR(95%CI)は一日あたりの飲酒量25gでは2.81(1.79-4.40)、50gでは5.11(2.63-9.94)、100gでは11.00(4.61-26.24)であった。少量から中等量域では飲酒量と食道がんリスクの間に量反応関係を認めた。食道がんリスクの閾値は認めなかった。また、今回の検討において高容量域は飲酒量と食道がんリスクの量反応曲線は水平になり一定のリスク上昇を示した。	
結論： 少量から中等量域では飲酒量と食道がんリスクの間に量反応関係を認めた。食道がんの閾値は認めなかった。	